

# 若人 No.4

校長室より生徒のみなさんへ

## 2学期終業式を迎えて

# 学び続け、考え続け、活動し続ける人であれ

2学期は充実した学習や活動ができたでしょうか。文化祭に始まり、部活動の新人戦や町のイベント、そして110周年の記念式典など様々なことがありました。なかでも、記念式典には、国会議員をはじめ、多くのご来賓に来ていただき、兵庫県有数の伝統校であることを再認識できたと思います。そのことを自覚し誇りに思うとともに、自分たちでこれからの出石高校を作る気概をもって欲しいと思います。

さて、2学期の始業式で自ら進路を開くということについて話しました。すでに3年生の多くの人の進路が決まりました。春からの生活に夢を膨らませていることでしょうか。しかし、センター試験が1月にあります。受験する人は、まだまだこれからが本番だと思い、周りの人は温かい目で見守りはげまして欲しいと思います。

今日は、学び続けることの意義についてみなさんに話したいと思います。

110周年での川尾さんの講演では、大学卒業後、昼は働きながら、夜は夜中まで書道に集中し、国内外で受賞されたということでした。まさに、学び続け、活動し続けたわけです。しかし、書家として何かを成し遂げる決意をして、30歳のころ勤務をやめ、書道に専念したということでした。強い「覚悟」を感じます。

歴史上で、晩年まで学び続け活動し続けた人はたくさんいますが、中でも、江戸時代に精緻な地図をつくった伊能忠敬はその際たる人です。今の千葉県香取市の商家に養子に入り、商売や町づくりで活躍しました。しかし、学問に対する情熱を絶ちがたく、49歳で隠居後、江戸に出て測量や天体、それに暦を学び、56歳から全国の測量と地図作りに没頭しました。当時未開の土地だった北海道（当時の蝦夷地）にまで出かけました。山陰道も測量し、但馬にも2度来ています。72歳まで測量と地図作りをしますが、当時の平均寿命は50歳くらいですから、その気力と使命感に頭が下がります。

スポーツで言うとうわかりやすいでしょう。ジャンプの葛西選手は45歳でまだ国際試合で日本代表として頑張っており、次のオリンピックを狙っています。また、大相撲の安美錦はアキレス腱断絶で長く休んだ後、先場所39歳で幕内に返り咲いて勝ち越し敢闘賞を取りました。二人ともその影で人一倍の努力と、トレーニングや食事などの研究をしているとききます。本当に学びや努力に終わりはないと思います。そして、われわれもそういう学び続け努力し続ける気概を持ちたいと思います。

レベルは下がりますが、私の経験からわかるのは、いろんなことをやり続けることで、考えたり新たにわかることがあるということです。たとえば、バドミントンでは、グリップの握りや構えは硬式テニスと同じです。握りはイースタングリップで、構えは半身（はんみ）です。そして、右足と右手が一緒に動きます。普通走るときは、手と足は逆ですが、バドミントンや硬式テニスは同じなのです。ちなみに、柔道も半身で構え手と足が同じに動きます。これはなぜか。そこで身体のつくりや動きの理屈を調べ、考えるわけです。

もうひとつ、同じ格闘技でも、柔道、空手道、合気道で相手に対する動きが異なります。たとえば、相手が上から手を振り下ろしてきたとき、柔道ならその手を取って一本背負いするかもしれません。空手なら、上段で受け突きを食らわすこともできます。合気道なら、その力を利用して振り回し、関節を決めることもできます。同じ攻撃に対し、武道の中でも別の対応があるわけです。そして、それぞれに人の身体の理屈にかなっているわけです。

スポーツのことを話しましたが、複数のことを学ぶと、他と比較することができ、より理解が深められます。先日まで英語学研修に行った人は、英国のことを知り、英語の勉強になったことはもちろんですが、出石や但馬、そして日本と英国とを比べ、その中で客観的、相対的に見るようになるようになったはずですよ。

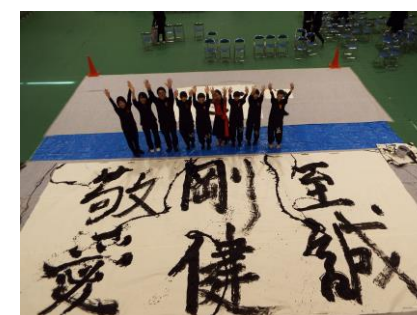
これからの社会は、情報化、グローバル化や地域の少子高齢化がどんどん進み、高校卒業後もずっと学び続け、ずっと活動し続けなくてはなりません。その過程でいろんなことわかり、知識は磨かれていきます。また、君たち高校生のときが、最も知識を習得し思考力を深め、体力の成長の期待できるときなのです。人生と言う長いスパンで考えたとき、ずっと学び続けてください。そして今が一番がんばるべきときと肝に銘じてください。



ドローンで上空より見ると、出石高校を基点に出石の町が広がっているように見える



PTCA陶芸教室で保護者や地域の人と陶芸



11/25 記念式典で川尾朋子さんと校訓の合作